

初等中等教育機関における防災訓練にかかわる意識調査

中央大学理工学部土木工学科 学生会員 松谷 善昭
 中央大学理工学部土木工学科 正会員 佐藤 尚次
 目白大学短期大学部生活科学科 正会員 吉岡 由希子

1, はじめに

昨今,日本では大規模な地震や集中豪雨などの自然災害が頻発している.今後,東海地震や首都直下型地震などの大地震がいつ起こってもおかしくない状況にある.

そして,世界的にも有数の災害発生国である我が国においては,災害等に対する知識や対処能力を子どものころから身に付けておくことが,この国に居住し生活していく上での必須条件である.このため,学校における防災教育や避難訓練が重要となってくるが,現実問題として現状の訓練では災害に対する知識や対処能力は十分身に付いているとは言えない.また,必ずしも切迫した状況をシミュレートした訓練を行えるような雰囲気醸成されているわけでもない.この点に着目し,問題提議を含めアンケートの実施・分析を行った.

2, 防災教育の現状

多くの学校で行われている防災教育の一つに防災訓練がある.多くの場合,その防災訓練は行事の一環としてみ込まれているのがほとんどである.

そしてシナリオに従った周知な事前準備に基づいたデモンストレーション的な性格が強くなっている.これでは訓練を通じて現状の問題や課題を抽出したり,その解決策を検討したりすることは難しい.

防災訓練の現状を事前調査した結果,挙げられた問題点を大きくまとめて以下に示しておく.

- ・生徒の安全確認の手順
- ・生徒の安全確保
- ・災害の規模(被害状況の深刻度)
- ・地震以外に想定される被害

これらの点が現状の防災訓練では曖昧になっており,実際の災害が生じたときの対応につながっていると保

障できるものになっていない.

また,発災時の季節や天候,時間帯などが違えば被害状況は全く異なる.人はイメージできない状況に対する適切な心がけや準備はできない.

3, 概要

子どもは災害弱者であり,災害時など予測のつかない事態になった時に教員にかかる負担は大きい.

そこで本研究では防災教育を行う教員を対象とし,より現実的な災害時の対応をイメージしてもらい,防災意識・防災教育の向上,災害時に子どもを守る体制の充実化を目的としたアンケート調査を行うこととした.

アンケートの内容については大きく3つに分類されている.

() 防災意識に関する質問

この項目では回答者の学校は地震に対して安全であるか,もしくは危険だと感じるか,また緊急時の対応として生徒や他の教員と話す機会はあるかなどについて聞いていくことで,教員の防災意識・危険認識の現状を把握する.

() 災害時の対応に関する質問

この項目はアンケートの核となる項目である.ここでは,震度6弱の大規模地震が起こったことをイメージしてもらい,休み時間などの発災時に生徒が様々な場所に点々バラバラでいる場合の安否確認,大ケガした生徒の具体的なケアの仕方,二次災害の対応についてなどを聞いていく.困難な状況を想定した対応の調査を行う.

() 回答者に関する質問

この項目では,年齢・担当学年・役職を聞くことで(),()の質問項目との関連性を分析し,防災意識と災害時対応の実態を把握する.

キーワード : 防災 地震 災害 学校 教育 アンケート

連絡先 : 〒122-8551 東京都文京区春日 1-13-27 中央大学理工学部土木工学科 TEL:03-3817-1733

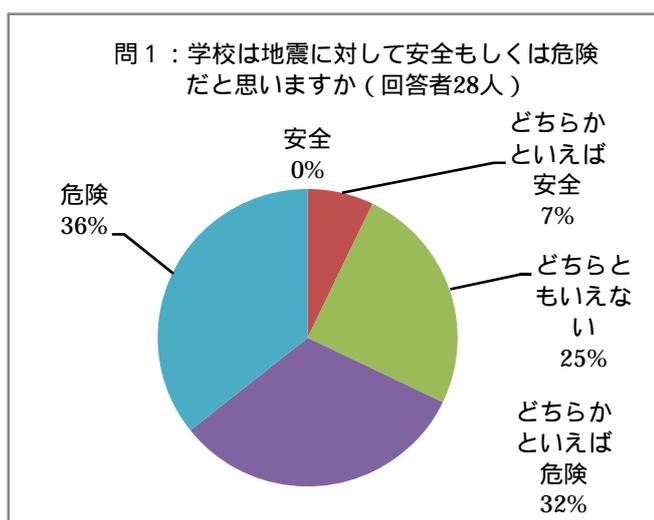
4, アンケートの実施状況

アンケートは多くの学校に依頼しているものの、実施許可を得るのは困難である。協力いただけなかった学校の原因の中には、「学校には災害時対応のマニュアルがあり実際に起こってしまったときには、そのマニュアルに従って行動する」や「このアンケートを実施することによって防災体制の脆弱さが明らかになったとき、対処法がわからない」といった回答があった。

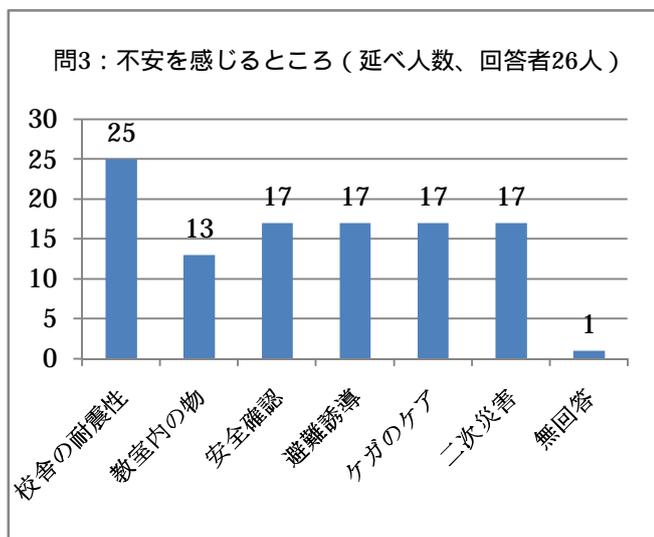
5, アンケート結果

以下、ある公立中学校のデータを示す。

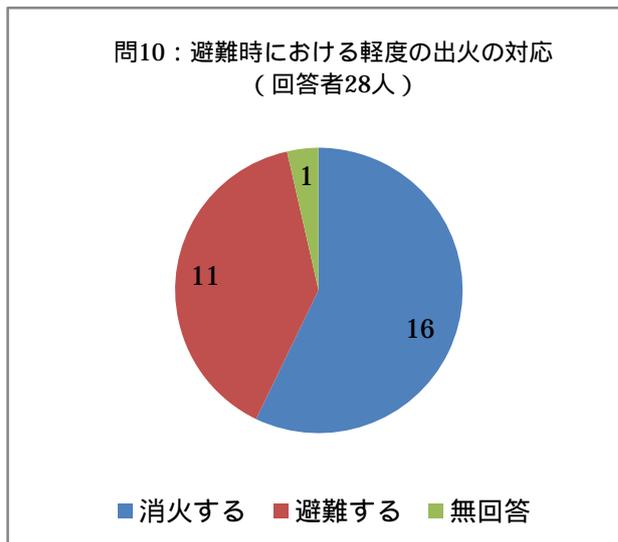
(有効回答 28 票)



この結果より、68%の教員が地震に対して学校は危険であると回答している。



問3は問1において選択肢3～5を選んだ教員によるものである。これにより回答した26人のうち無回答を除く25人が校舎の耐震性に不安を感じていることがわかる。



この設問では「消火する」「避難する」にバラつきがあるが、コメントで「避難する」と答えた中に消防車を呼ぶと回答されていたのが多くみられた。

アンケートの核となる地震により重傷を負った生徒の具体的なケアの仕方を問うた設問では、まずは救命救急法に従い必要に応じて人口呼吸や心臓マッサージをすると回答の後、問10と同様に救急車を呼ぶなどといった回答が目立った。

このように、大規模地震災害時などが平時と同様に消防や救急に頼れると考えている人が少なくない。

6, 終わりに

回収データが増える予定であるので、その結果を発表会に反映させたいと考えている。

参考文献

- 1) 防災教育チャレンジプラン (<http://www.bosai-study.net/top.html>)
- 2) 目黒公郎；間違いだらけの地震対策, 旬報社, 2007